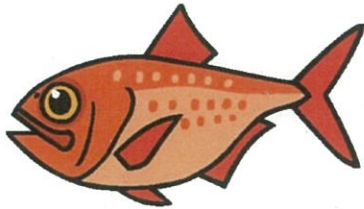


千葉県 沿岸重要水産資源 平成 29 年度資源評価

# キンメダイ



- ・水深 200~800m の海山や陸棚縁辺部に生息し、県内では銚子沖，勝浦沖，東京湾口漁場で立縄（釣り）により漁獲される。
- ・満 2 歳で尾叉長 19cm 体重 180g に達した後，4 歳で 27cm 430g，10 歳で 35cm 1,050g に達する。
- ・産卵期は 6~8 月。

## 資源評価

### 銚子沖

水準：中位

動向：増加



### 勝浦沖

水準：低位

動向：横ばい



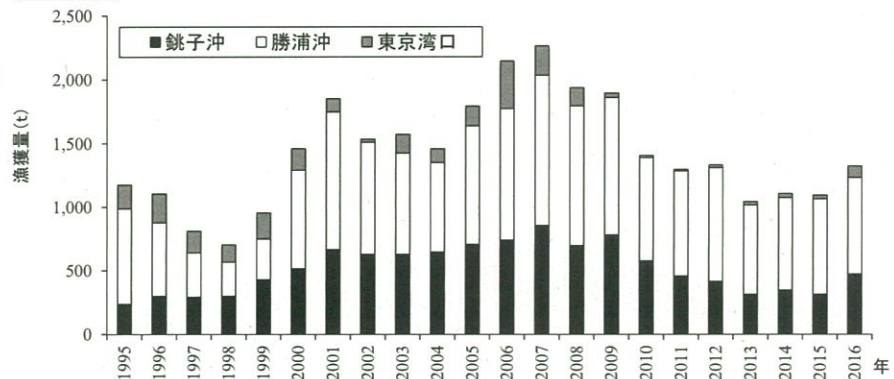
### 東京湾口

水準：高位

動向：増加



## 漁獲量



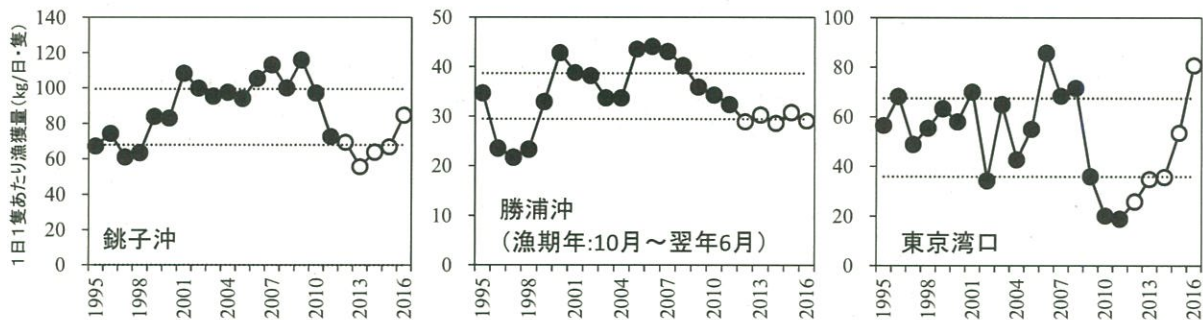
キンメダイの漁場別漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

- ・千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し，2007 年には最大の 2,263t が漁獲された。
- ・2007 年以降の漁獲量は各漁場とも減少してきたが，2013 年以降は横ばい傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・資源水準及び動向は漁場ごとに 1995 年以降の 1 日 1 隻あたり漁獲量 (CPUE) で判断した。
- ・2016 年の資源水準は，銚子沖は中位，勝浦沖では低位，東京湾口では高位水準にある。最近 5 年間の動向は銚子，東京湾口では増加傾向，勝浦沖では横ばいにある。



銚子沖，勝浦沖，東京湾口漁場における 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化

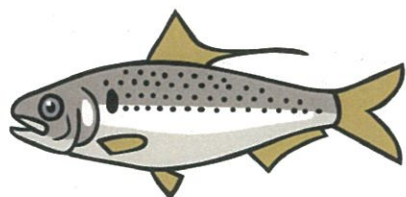
## 資源管理の取り組み

- ・漁場ごとに小型魚の再放流 (銚子沖・勝浦沖全長 25 cm 以下，東京湾口全長 22 cm 以下)，針数・縄数の制限，休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。

## 備考

- ・東京湾口漁場では 2009 年以降，漁業者の高齢化等により着業隻数が減少している。
- ・国の実施した資源評価では，関東沿岸から伊豆諸島周辺海域における 2015 年の資源水準は低位，動向は減少と判断されている。

# コノシロ（東京湾）



- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は 4～7 月で、産卵場は当初は東京湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

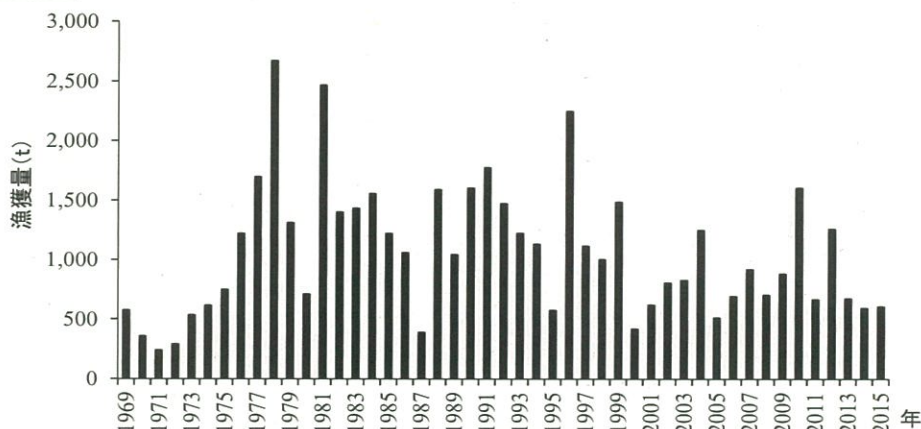
## 資源評価

## 漁獲量

水準：高位



動向：横ばい



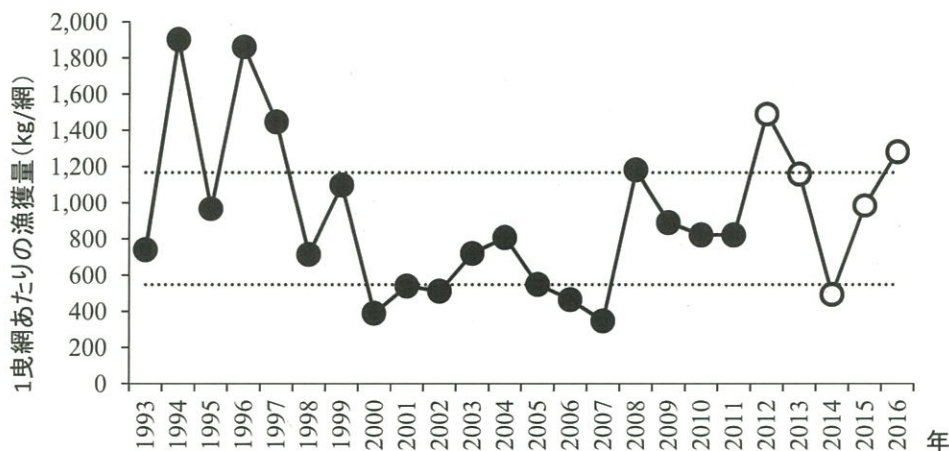
東京湾におけるコノシロの漁獲量の経年変化（千葉農林水産統計年報）

- ・ 東京湾におけるコノシロの漁獲量は、1978 年に 2,674t を記録したが、1980 年には 710t に減少した。その後も年による変動が大きく、近年は 600～1,600t で推移している。

注）資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、東京湾で操業する中型まき網漁船の操業日誌から集計した 1993 年以降の 1 曳網あたりの漁獲量 (CPUE) で判断した。
- ・ CPUE も漁獲量と同様に変動が激しいが、2016 年の資源水準は高位、最近 5 年間の資源動向は横ばいである。

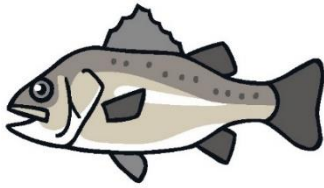


東京湾における中型まき網標本船による 1 曳網あたり漁獲量の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾内において、底びき網では休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網では冬期に休漁期間を設けるなど、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

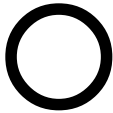
# スズキ（東京湾）



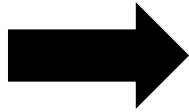
- ・ 漁獲のほとんどが東京内湾・内房海域で、中・小型まき網、小型機船底びき網などで漁獲される（千葉県は全国 1 位）。
- ・ 産卵期は 10 月下旬～3 月上旬で、産卵場は東京湾口部にある。
- ・ 1983 から 1998 年まで県が種苗放流を実施していたが、資源の増加により以降休止状態。

## 資源評価

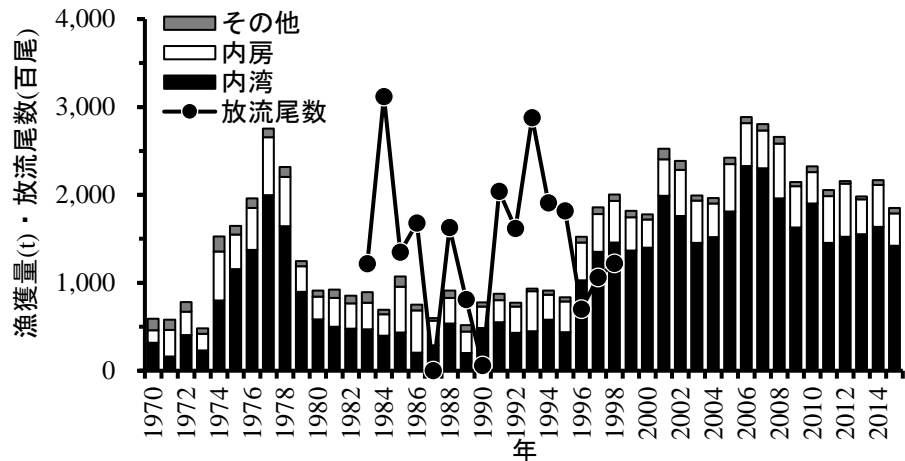
水準：中位



動向：横ばい



## 漁獲量



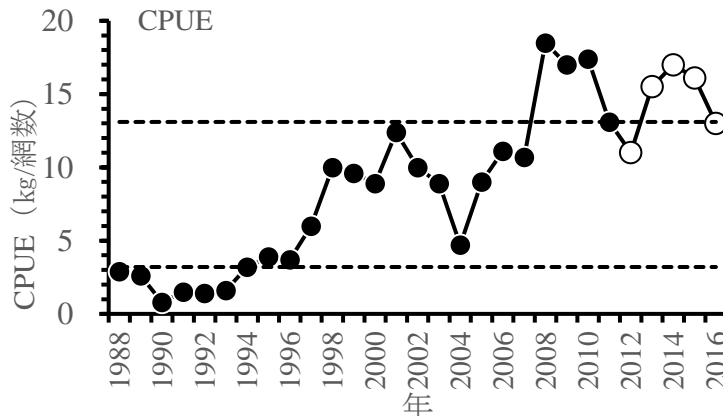
すずき類漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

千葉県におけるすずき類の漁獲量は、1990 年代後半に著しく増加し、2,000t 前後の漁獲が続いている。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、底びき網の操業日誌から集計した CPUE（1 網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2016 年の資源水準は中位、最近 5 年間の資源動向は横ばい傾向となった。

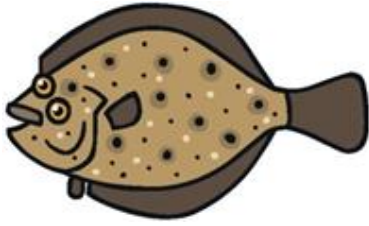


底びき網の標本漁船によるスズキの 1 網当たり漁獲量 (kg/網；CPUE) の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、まき網で冬期の休漁期間の設定など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

# ヒラメ



- ・ 砂浜域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網，刺網，定置網などにより漁獲される。
- ・ 1歳で全長 35cm，2歳で 45cm 体重 1kg に成長し，3歳以降は雌雄差が拡大し，5歳では雄が 60cm 体重 2.3kg に対して雌では 70cm 体重 3.9kg に達する。
- ・ 産卵期は 3～6 月。
- ・ 1982 年から種苗放流を実施。

## 資源評価

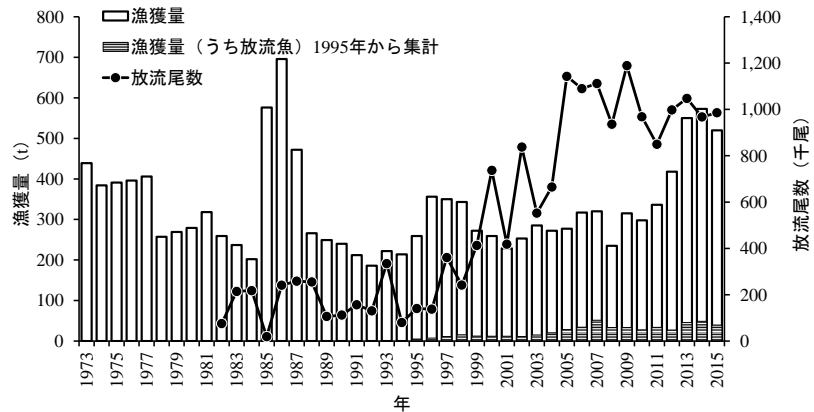
水準：高位



動向：増加



## 漁獲量



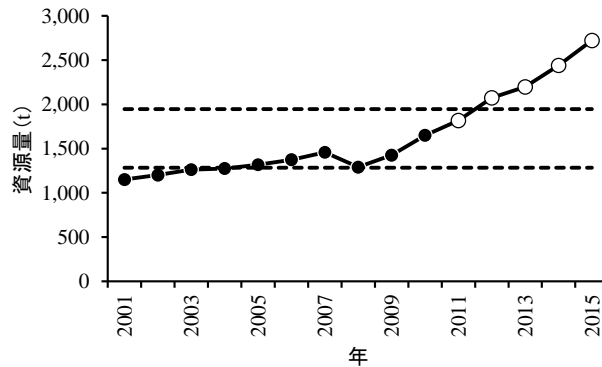
千葉県におけるヒラメ漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

1973 年以降 200～400t で推移し，1985～1987 年には漁獲量が一時的に増加した。近年の漁獲量は増加傾向にあり，2015 年は 520t 漁獲された。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値(資源量)から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は，漁獲物測定，漁獲統計の資料から推定される資源量で判断した。
- ・ 2015 年の資源水準は最近 15 年間の中では高位，最近 5 年間の資源動向は増加。

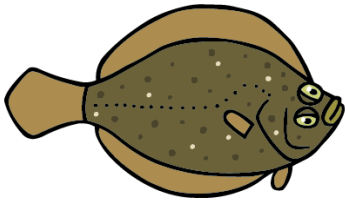


千葉県におけるヒラメ資源量の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 小型魚（全長 30cm 未満，底びき網は 25cm 未満）の再放流，刺網の設置時間制限のほか，県も一体となって実施している種苗放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。

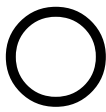
# マコガレイ (東京湾)



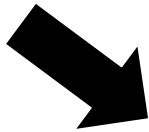
- ・ 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991 年から種苗放流を実施。

## 資源評価

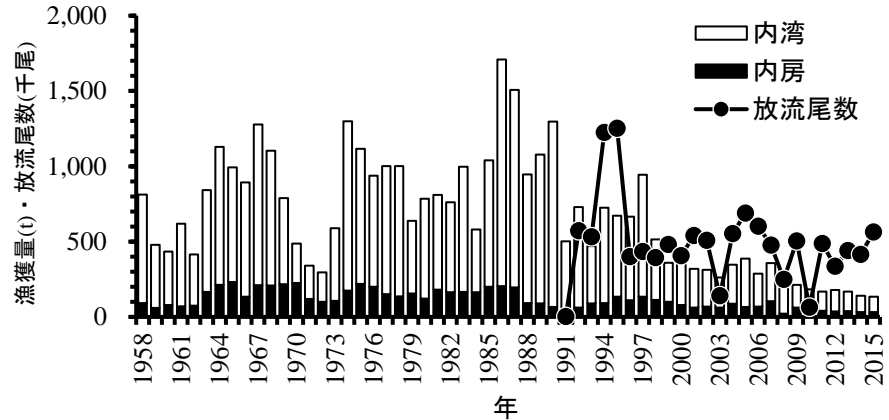
水準：中位



動向：減少



## 漁獲量



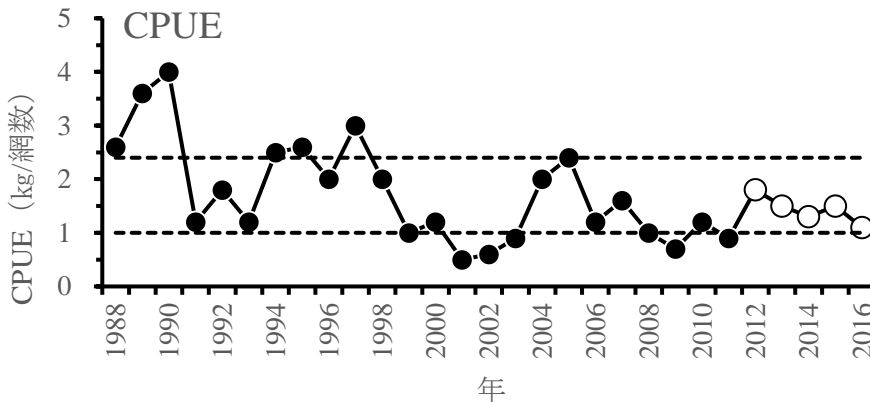
### かれい類漁獲量 (千葉農林水産統計年報) と放流尾数の経年変化

東京湾におけるかれい類の漁獲量は、1970 年代まではイシガレイ主体で、その後、マコガレイ主体となった。長期的には減少傾向にあり、1980 年代後半から 1990 年までは 1,000t を超える水揚げがみられていたが、近年は 200t を下回っており、低迷している。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、底びき網の操業日誌から集計した CPUE (1 網当たりの漁獲量) で判断した。
- ・ 2016 年の資源水準は中位、最近 5 年間の資源動向は減少傾向となった。

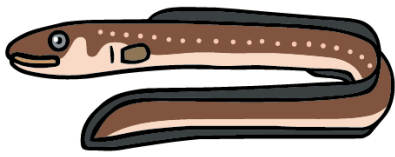


### 底びき網の標本漁船によるマコガレイの 1 網当たり漁獲量 (kg/網 ; CPUE) の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 内湾の底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限による漁獲圧の抑制・産卵期の保護、県との連携による稚魚分布調査、稚魚の保護のための禁漁区設定など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991 年から県による種苗放流が行われている。

# マアナゴ



- ・ 東京湾においては、あなご筒、小型機船底びき網で、銚子・九十九里においては、沖合底びき網、小型機船底びき網、延縄で漁獲される。
- ・ 産卵場は、沖ノ鳥島南方の九州ーパラオ海嶺上で、葉形仔魚（通称：のれそれ）が日本沿岸に来遊する。

## 資源評価

### 東京湾

水準：低位

動向：増加



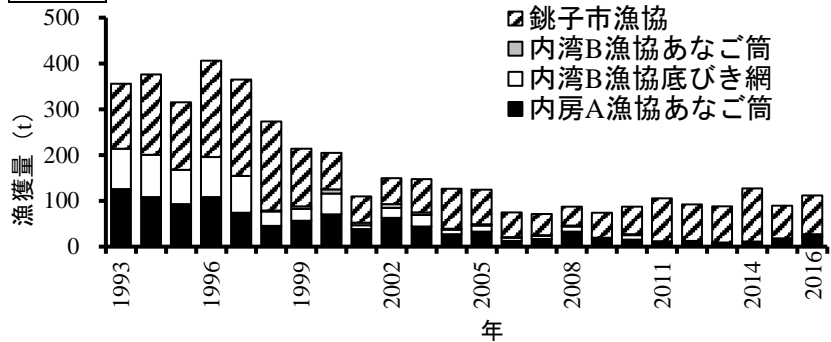
### 銚子・九十九里

水準：高位

動向：減少



## 漁獲量



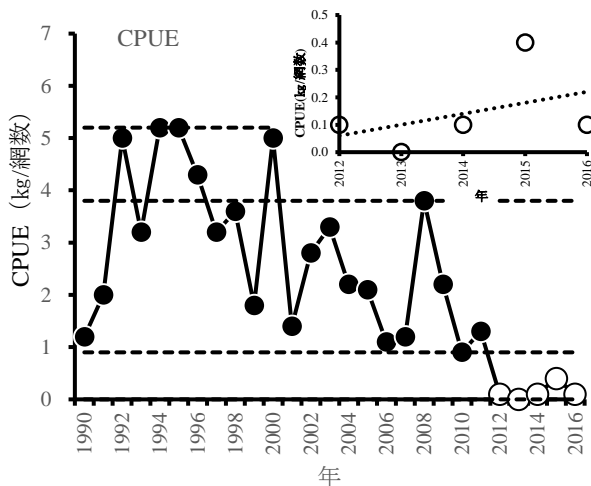
県内主要3漁協のマアナゴ漁獲量 (千葉県調べ)

千葉県内の主要3漁協におけるマアナゴの漁獲量は、1990年代以降減少傾向で、近年は東京湾、内房は極めて低い水準であるのに対して、銚子・九十九里では90トン前後で推移している。

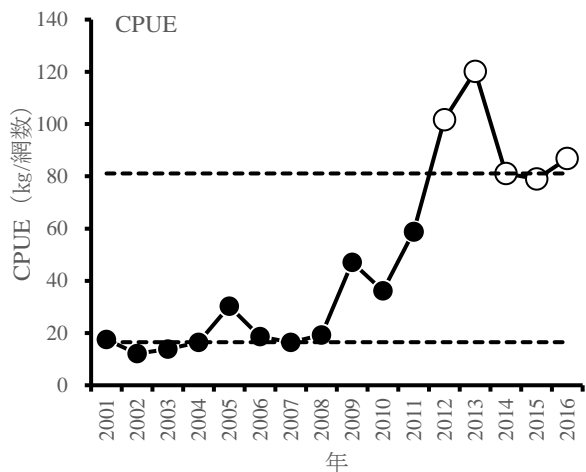
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 2016年の資源水準は、東京湾では低位、最近5年間の資源動向は増加傾向、銚子・九十九里では高位、減少傾向となった。



東京湾における小型機船底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化

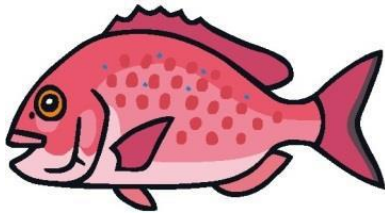


銚子地区における沖合底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限及び漁具の制限、あなご筒で水抜き穴の拡大による小型魚の保護など、銚子・九十九里においては、底びき網で改良漁具導入による小型魚の保護など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

# マダイ



- ・ 海底が起伏に富んだ岩盤または砂礫質の水域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網、刺網、定置網、釣りなどにより漁獲される。
- ・ 1歳で尾叉長16cm、2歳で24cmに成長し、4歳で37cmとなつて体重は1kgを上回り、6歳で2kgを超える。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1980年から種苗放流を実施。

## 資源評価

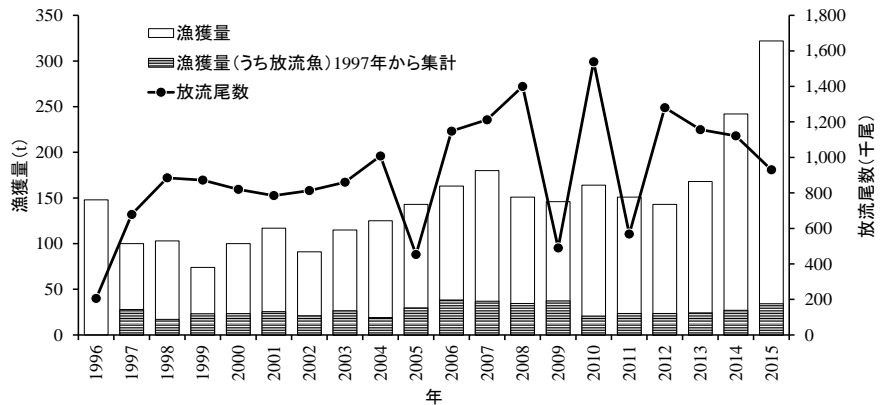
水準：高位



動向：増加



## 漁獲量



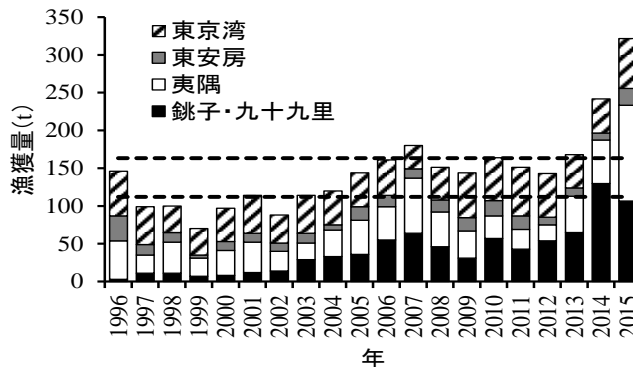
千葉県におけるマダイ漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

1999年に74tまで減少したが、それ以降は増加に転じ、2007年は180t漁獲された。2008年以降は150t前後で安定して推移し、2014年以降200t以上に増加し、2015年は322t漁獲された。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2015年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は増加。
- ・ 近年、銚子及び夷隅海域で漁獲が増加し、資源水準を引き上げていると考えられる。



マダイの海域別漁獲量の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 小型魚（全長20cm以下）の再放流、県も一体となって実施している種苗放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。